穂高広域施設組合
一般廃棄物最終処分場候補地選定のあらまし

安曇野の
自然と人の
共生をめざして

穂高広域施設組合
最終処分場検討委員会

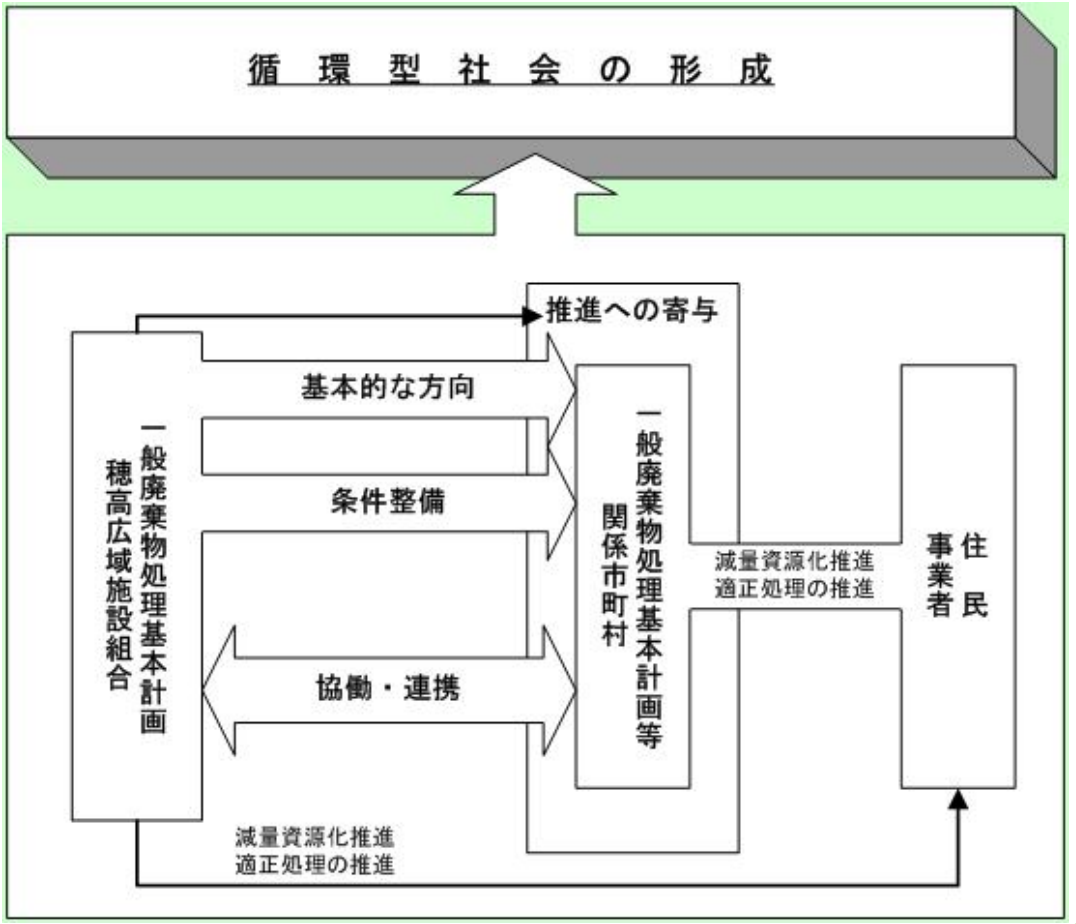
一般廃棄物最終処分場候補地選定のあらまし

- 一般廃棄物処理基本計画と
  最終処分場整備基本構想について
- 最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針
- 全体の事業手順
- 意見交換

一般廃棄物処理基本計画

平成19年6月

基本計画の位置付け



一般廃棄物処理基本計画

平成19年6月

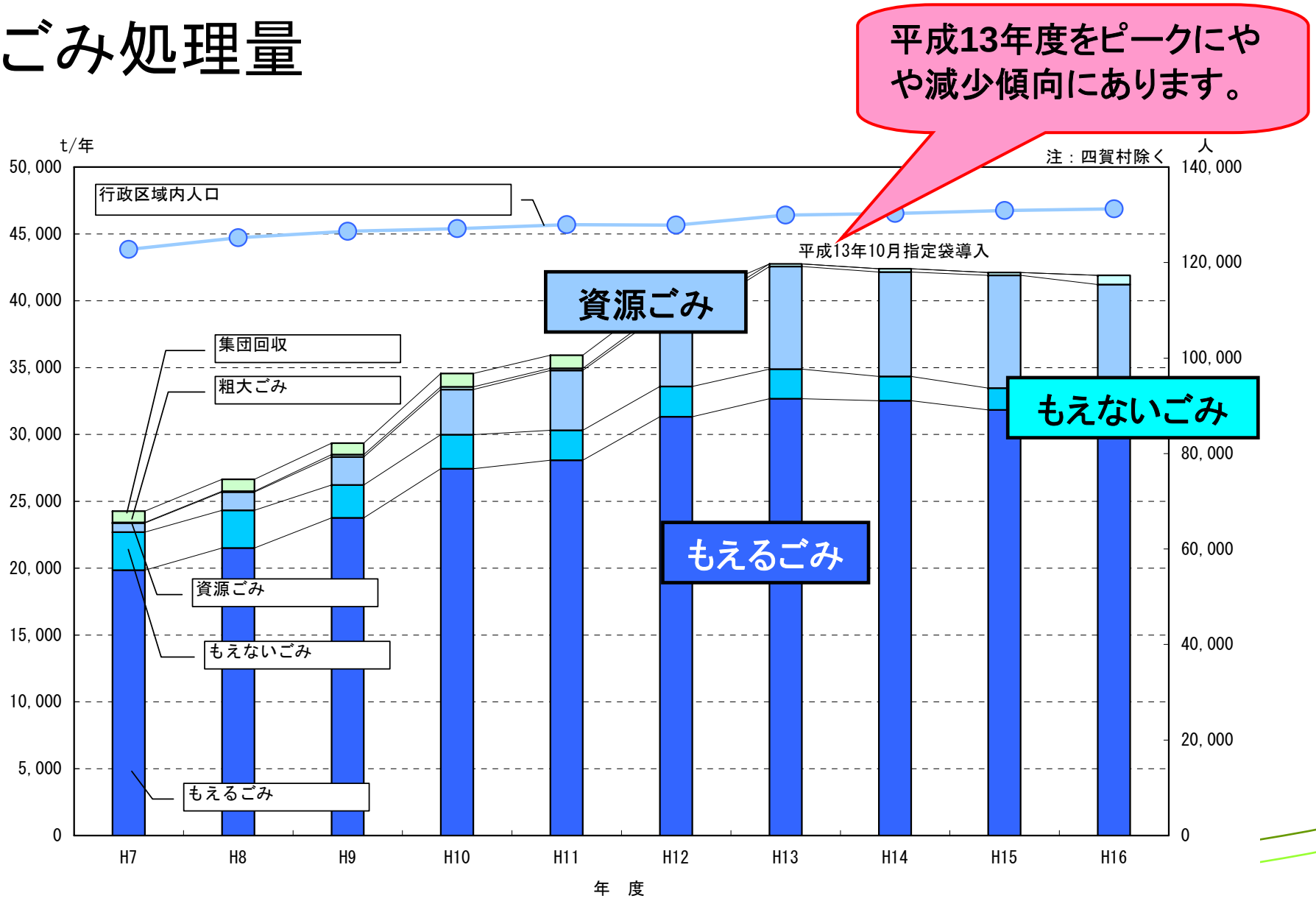
基本理念

～住民・事業者が主役の循環型社会を目指して～

全ての人達が、自らの責任と義務を理解し、協力しあい、率先した４Ｒの実践を地域に根付かせ、循環資源を大切にする社会、豊かな環境と持続ある社会発展を未来につなげていく社会を目指します。

１	Refuse（リフューズ）	ごみを基から断つ
２	Reduce（リデュース）	ごみを出さない、減らす
３	Reuse （リユース）	ごみを再び使う、再使用
４	Recycle（リサイクル）	ごみを原料として利用、再生利用

ごみ処理量


平成13年度をピークにやや減少傾向にあります。
t/年
人
注：四賀村除く
50,000
45,000
40,000
35,000
30,000
25,000
20,000
15,000
10,000
5,000
0
140,000
120,000
100,000
80,000
60,000
40,000
20,000
0
行政区域内人口
平成13年10月指定袋導入
資源ごみ
もえないごみ
もえるごみ
集団回収
粗大ごみ
資源ごみ
もえないごみ
もえるごみ
H7
H8
H9
H10
H11
H12
H13
H14
H15
H16
年　度

ごみ処理の流れ
（もえるごみ）

約32,000t

穂高クリーンセンター
焼却処理

約2,900t

焼却灰

不燃物

約500t

最終処分

ごみ処理の流れ
（もえないごみ）

約950t → 穂高クリーンセンター 破砕処理 → 約380t → 資源化

破砕処理 → 残渣 → 最終処分

約570t

ごみ処理の流れ

もえるごみ

穂高クリーンセンター
焼却処理

焼却灰

約2,900t

不燃物

約500t

もえないごみ

穂高クリーンセンター
破砕処理

残渣

約570t

資源化

約380t

最終処分

約4,000t

全量を民間へ委託

本組合の最終処分状況

- 焼却灰等の埋立物は、全量、廃棄物処理処分業者(民間)へ委託により処分。
- 委託料は、年間約1億円。
- 現在、最終処分地施設の残余埋立可能量は残りわずかとなっている。

最終処分地施設整備のあり方

一般廃棄物の適正な処理・処分の責務は、組合（市町村）にあり、最終処分された焼却灰等は、将来にわたって組合（市町村）が責任を負わなければなりません。

また、最終処分地施設は、埋立が完了しても適性に維持管理していく必要があります。

埋立完了後も、将来的な維持管理は、民間の処分場においては、少なからず負担となります。

過去に、本組合から民間へ委託した廃棄物が不法に投棄されるという問題もありました。

一般廃棄物処理基本計画

平成19年6月

最終処分地施設整備のあり方

本組合においては自ら出したごみは自ら処理処分する自区内処理を原則とし、管内において最終処分地施設を確保し、将来にわたって適正に管理していくことを基本とします。

一般廃棄物最終処分場整備基本構想

平成19年6月

最終処分場整備の基本方針

① 基準に適合し、環境保全対策を行った施設
② 環境への配慮として適正なリスクに配慮した施設
③ 地域へのメリットとなる地域還元策に配慮した施設
④ 地域と情報を共有する施設
⑤ 経済性に配慮した施設

一般廃棄物最終処分場整備基本構想

平成19年6月

最終処分場の概要

施設の種類　：
　管理型一般廃棄物最終処分場
　　→　遮水機能を有し
　　→　浸出水を処理施設で処理
「被覆型処分場」

被覆型最終処分場の特徴

	特　徴
環　境	**景観上有利**。 浸出水処理水の**放流量が少ない**。 環境管理(浸出水・騒音・飛散)が容易。 ごみの飛散やカラス等の被害がなく、埋立作業重機音が軽減できるなど、**外部生活環境への影響小**。
住民意識	**クリーンなイメージ**。 住民同意が得易い傾向。 屋内スポーツ施設等が可能。
立　地	ごみの直視や飛散、カラス等の被害がなく**市街地内の立地も可能**。
経済性	建設費や維持管理運営費のコストダウンが図れる。

一般廃棄物最終処分場整備基本構想

平成19年6月

最終処分場の概要

埋立期間　　：　平成25年～平成39年（15年間）
埋立対象物　：　焼却灰、不燃残渣、破砕残渣

一般廃棄物最終処分場整備基本構想

平成19年6月

最終処分場の概要

施設規模　　：　15，400～52，500m3
（処分量は中間処理方式により異なる）

必要敷地面積　：　平地で約3～3.5ヘクタール程度
※切土盛土造成が必要な場合は、
さらに広い敷地が必要

一般廃棄物最終処分場整備基本構想

平成19年6月

候補地選定に関する概要

☆ 今回建設する候補地は安曇野市の地区から選定する。
☆ 今回建設する地区は最終処分場を一定期間（期間は地元協議によって決める）建設しない協定を結ぶ。
☆ 次期の候補地は、今回建設する地域以外の人口及びごみ処理量の多い地区から選定する。

最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針

穂高広域施設組合最終処分場検討委員会

・検討委員　１５名

・４月に設立　原則月１回開催

（現在まで、計１０回開催）

最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針

最終処分場候補地選定フロー

施設整備方針の整理

平成17、18年度
処理施設検討委員会

予備候補地の抽出

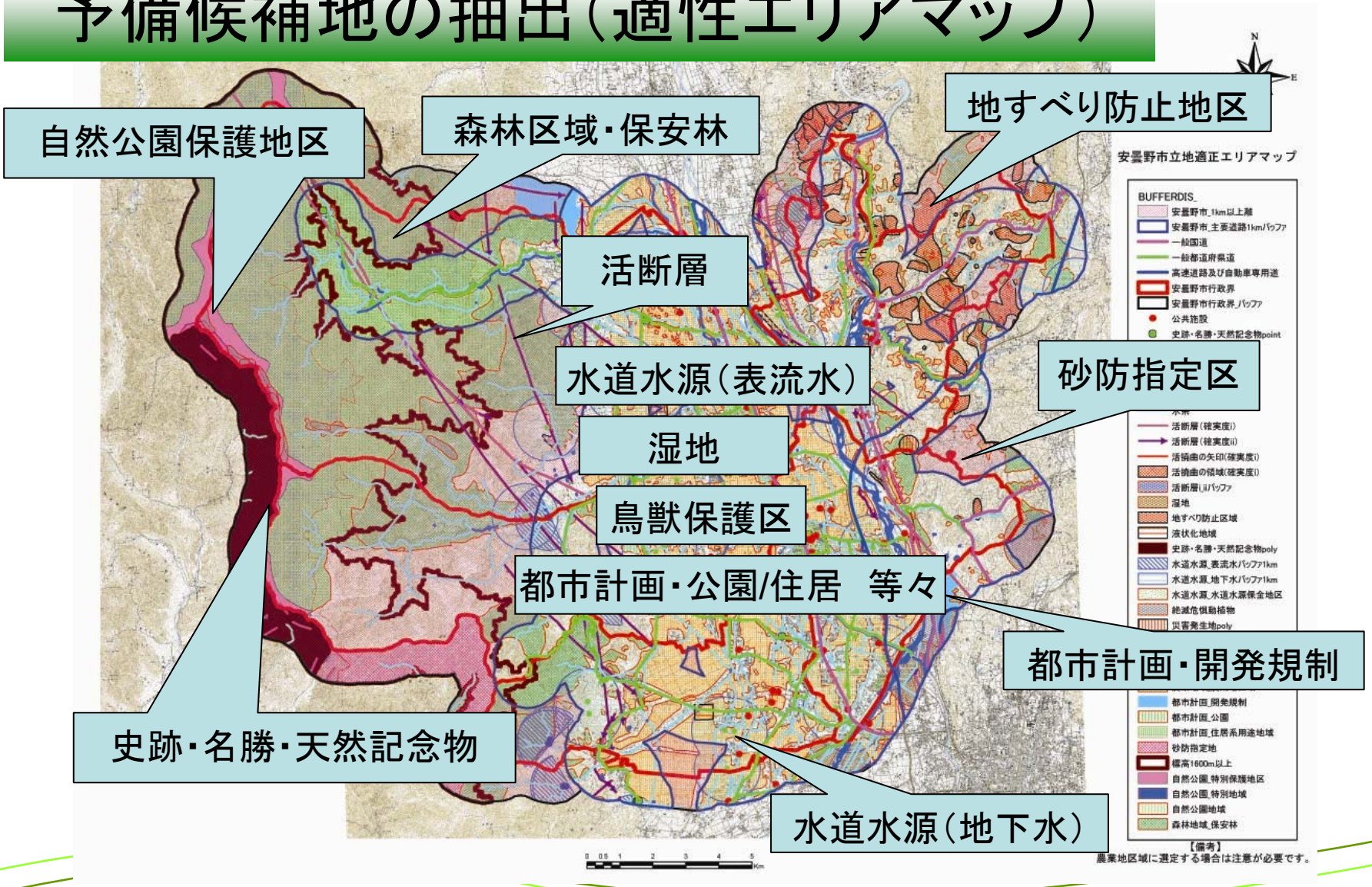
比較評価

候補地の絞り込み

平成20年度
最終処分場検討委員会

最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針

予備候補地の抽出（適性エリアマップ）



最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針

評価基準	評価項目	評価内容	配点		評価ランク（質値）		
					A (1.0)	B (0.5)	C (0.10)
生活環境	景観保全機能（変化のインパクト）	立地による周辺地域からの景観変化へのインパクト	4	25	小さい	中位	大きい
	生活圏近接度	候補地周辺集落との距離	4		500m以上	500～100m	100m未満
	周辺民家との距離	候補地に最も近い民家との距離	5		500m以上	500～100m	100m未満
	周辺の学校・病院等との距離	候補地周辺の学校・病院等との距離 （学校、保育園、幼稚園、病院、福祉施設等）	5		1000m以上	1000～500m	500m未満
	同一地区における周辺公共施設の数	同一地区内における公共施設の数 （公共施設；清掃工場、下水処理場、火葬場）	4		無	１つ有	２つ以上有
	下流側上水道水源（表流水）との距離	下流側の上水道水源（表流水）との距離	3		無・３km以上	１～３km	１km未満
自然環境	下流河川類型	下流側河川の環境基準値を定めた水域類型	3	25	B	A	AA
	周辺土地利用	周辺の土地利用現況	3		荒地	農地	山林
	候補地土地利用	候補地の土地利用現況	3		荒地・開発済	農地	山林
	地盤条件	候補地の地盤状況	7		岩	礫	砂・泥
	下流側上水道水源（地下水）との距離	下流側の上水道水源（地下水）との距離	4		無・３km以上	１～３km	１km未満
	周辺の貴重動植物	既存資料による周辺の貴重動植物への影響	5		低い	中位	高い
土地取得	土地所有区分	候補地の公有地･私有地･混合の所有区分	3	6	公有地	公有私有混合	私有地
	農業振興地区	農用地区の有無	3		農用地区外	農用地区	ー
災害防止	土地保全機能（土砂災害・浸水被害）	土地の土砂災害・浸水被害発生の危険性	5	18	低い	中位	高い
	造成による災害危険性	造成による災害発生の危険性	6		低い	中位	高い
	活断層との距離	推定される活断層との距離	7		500m以上	500～50m	50m未満
施工性	造成規模	造成の形態による容易性･施工規模	5	14	小さい	中位	大きい
	取付道路施工規模	公道からの取付道路建設の必要性･容易性	3		小さい	中位	大きい
	雨水排水路整備規模	下流側排水路の有無と改修整備の必要性の有無	3		小さい	中位	大きい
	地盤による施工性	地盤状況による施工性	3		小さい	中位	大きい
建設運営管理	アクセス道路の改修規模	搬入･退出ルートとなるアクセス道路の問題点	4	9	小さい	中位	大きい
	アクセス距離	関連施設からのアクセス距離	5		５km未満	５～１０km	１０km以上
給水条件	水源の確保	用水の給水条件	3	3	容易	中位	困難
評価点計			100				

最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針

比較評価

・点数は，50点弱から70点台に分布。10箇所の中で、格別に高い点（適地である可能性が高い箇所）はなかった。

・ある候補地は、活断層が（直下を含む）近辺にあるらしいと近年指摘されていることが判明したため、対象としないこととした。

最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針

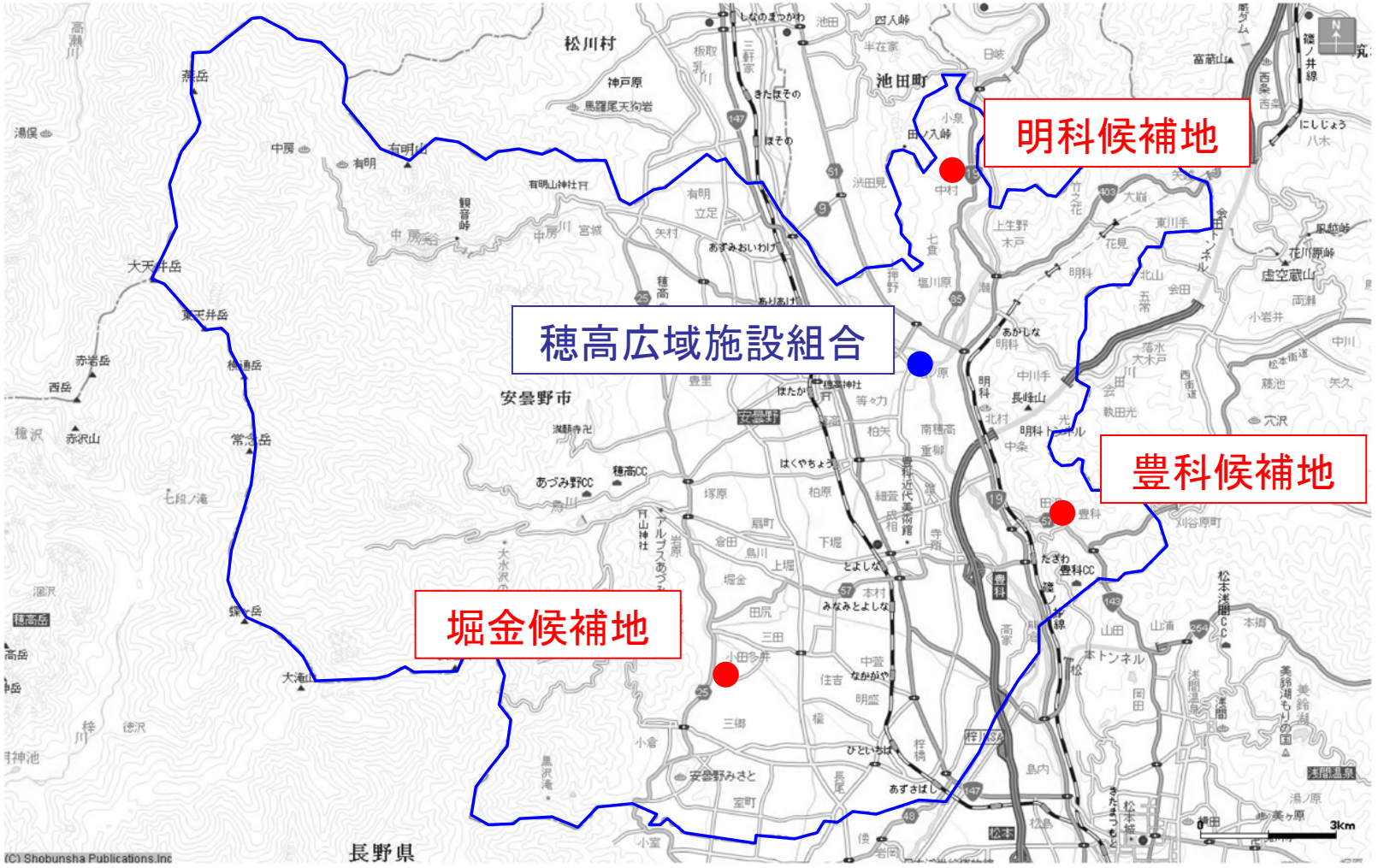
これらを踏まえ各地区での２箇所を相対評価して、１箇所ずつを選定した。

公平負担の原則にのっとり、クリーンセンターや最終処分場を抱える地区の候補地をはずした。

最終処分場候補地３箇所の選定

最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針

最終処分場候補地



最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針

明科候補地 ； 安曇野市明科南陸郷付近（土取場）

最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針

豊科候補地 ； 安曇野市豊科田沢付近(採石場)

最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針

堀金候補地 ；安曇野市堀金三田付近（三田工業団地西側）

最終処分場候補地選定の経緯と今後の方針

委員会の今後の予定

意見交換会

↓

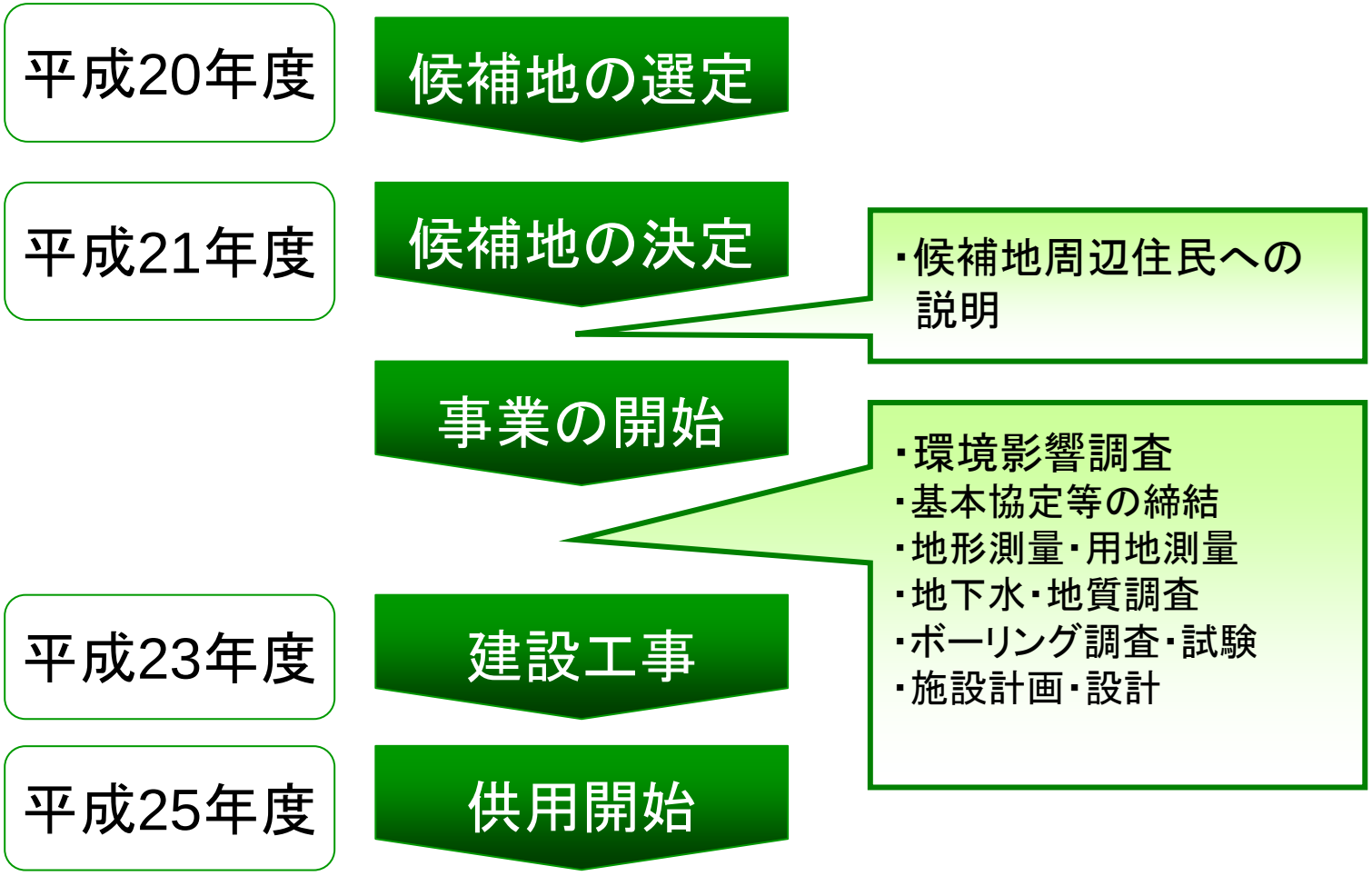
委員会での最終協議

↓

最終処分場候補地１箇所を３月に提言

半年程度延期します。

全体の事業手順


平成20年度
候補地の選定
平成21年度
候補地の決定
・候補地周辺住民への説明
事業の開始
・環境影響調査
・基本協定等の締結
・地形測量・用地測量
・地下水・地質調査
・ボーリング調査・試験
・施設計画・設計
平成23年度
建設工事
平成25年度
供用開始

ご視聴、ありがとうございました。

穂高広域施設組合
最終処分場検討委員会